

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-17088

(P2010-17088A)

(43) 公開日 平成22年1月28日(2010.1.28)

(51) Int.Cl.

A O 1 K 15/04 (2006.01)

A O 1 K 1/035 (2006.01)

F I

A O 1 K 15/04

A O 1 K 1/035

Z

テーマコード (参考)

2 B 1 0 1

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-177689 (P2008-177689)

(22) 出願日 平成20年7月8日 (2008.7.8)

(71) 出願人 391007769

株式会社キンタロー

和歌山県海南市船尾317-2

(74) 代理人 100076406

弁理士 杉本 勝徳

(72) 発明者 小池 正人

和歌山県海南市船尾317-2 株式会社
キンタロー内

Fターム(参考) 2B101 AA13 BB10 FB03

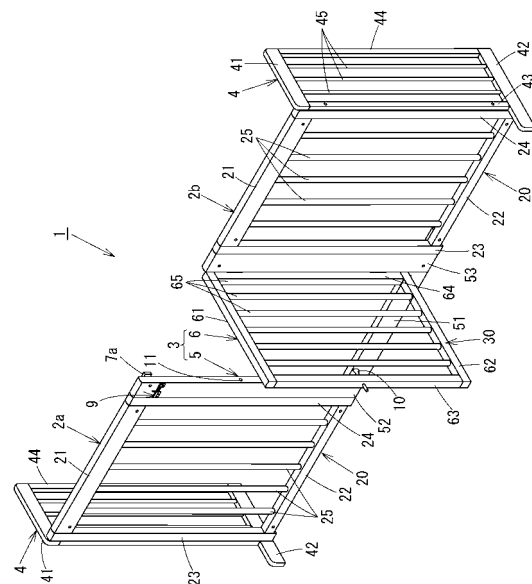
(54) 【発明の名称】 仕切り部材

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 支障なく扉の開閉が行なえて、しかも出入口からの出入りがスムーズに行なえ、それでいながら扉の設置部位の強度も充分確保することが出来る仕切り部材を提供する。

【解決手段】 正面視略U字状とした枠体5と、前記下部横杆51と左右縦杆とで画成される出入口を開閉する扉6とを備え、前記扉6を左右縦杆の一方に揺動可能に支持して成る出入り用柵部材3を形成し、この出入り用柵部材3の左右縦杆の内側面と前記出入り用柵部材3に連結されるメイン柵部材2a・2bの縦杆の内側面とに跨って連結体7を固定すると共に、前記扉6の揺動側に位置する連結体7の長さ方向一端部を前記出入口に突出させて、この突出部位により扉を閉鎖位置で受け止めるように成し前記扉6を前記連結体7の突出部位とで挟持するためのロック部材9が、前記出入口に突出する位置と前記出入口から退く位置とに位置変更可能に設けた。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

上下横杆及びこれら上下横杆の長さ方向両端部を連結する左右縦杆から成る枠体を備えた複数枚のメイン柵部材を接続して構成される仕切り部材であって、

下部横杆及びこの下部横杆の長さ方向両端に立設する左右縦杆とから成る正面視略 U 字状とした枠体と、前記下部横杆と左右縦杆とで画成される出入口を開閉する扉とを備え、前記扉を左右縦杆の一方に揺動可能に支持して成る出入り用柵部材を形成し、この出入り用柵部材の左右縦杆の内側面と前記出入り用柵部材に連結されるメイン柵部材の縦杆の内側面とに跨って連結体を固定すると共に、前記扉の揺動側に位置する連結体の長さ方向一端部を前記出入口に突出させて、この突出部位により扉を閉鎖位置で受け止めるように成し、前記出入り用柵部材における前記扉の揺動側に位置する縦杆の外側面には、前記扉を前記連結体の突出部位とで挟持するためのロック部材が、前記出入口に突出する位置と前記出入口から退く位置とに位置変更可能に設けられていることを特徴とする仕切り部材。

10

【請求項 2】

前記出入口用柵部材の枠体を構成する縦杆及び下部横杆の幅を前記メイン柵部材の枠体を構成する縦杆及び下部横杆の幅の約 2 倍としていることを特徴とする請求項 1 に記載の仕切り部材。

【請求項 3】

前記連結体が、前記出入り用柵部材及び前記メイン柵部材の上部と下部の 2 ヶ所に設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の仕切り部材。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、犬などのペット用または乳幼児用のゲートやサークルとして用いられる仕切り部材に関する。

【背景技術】**【0002】**

近年、子犬等を家屋内の一定の場所に入れておくために、所謂サークル（囲い）やゲートなどの木製の仕切り部材が提案されている。（特許文献 1 参照）

即ち、従来の木製の仕切り部材は、複数枚の柵部材を連結して、柵部材の一つに扉を設けているものであって、具体的には、柵部材の一つとして、上下棧と、これら上下棧の長さ方向両端をダボ部材などを介して連結する左右縦杆とから矩形状の枠を形成して、この枠内に扉を揺動可能に取り付け、扉の開動作により、枠内を出入口として開放するようにしている。

30

【0003】

しかしながら以上の構造の仕切り部材では、前記したように、扉の開動作により枠内が開放されるので、この枠内で子犬などの出入りは行なえるにしても、人が出入りするに際しては枠の上棧を跨ぐ必要があり、背の低い人では枠の上棧を跨ぐのが困難となる場合も考えられる。

【0004】

以上の不具合を解消するためには、枠の上棧を取り外して、U 字状に組まれた枠を形成し、この枠内に扉を揺動可能に取り付ければよいのであるが、従来の矩形に形成される枠の上棧を単に取り外して U 字状とするだけでは、枠の強度を充分確保することが困難となり、例えばこの枠内に揺動自由に設けられる扉の開閉操作時、枠全体が捩れ方向に歪むなどの不具合が考えられるし、場合によっては、枠自体が破損するなどの安全上の問題も生じる。

40

【特許文献 1】特開 2008 - 35815 号

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

50

本発明は以上の実情に鑑みて開発されたものであって、目的とするところは、支障なく扉の開閉が行なえて、しかも出入口からの出入りがスムーズに行なえ、それでいながら扉の設置部位の強度も充分確保することが出来る仕切り部材を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記した目的を達成するために、請求項1に係る本発明は、上下横杆及びこれら上下横杆の長さ方向両端部を連結する左右縦杆から成る枠体を備えた複数枚のメイン柵部材を接続して構成される仕切り部材であって、下部横杆及びこの下部横杆の長さ方向両端に立設する左右縦杆とから成る正面視略U字状とした枠体と、前記下部横杆と左右縦杆とで画成される出入口を開閉する扉とを備え、前記扉を左右縦杆の一方に揺動可能に支持して成る出入り用柵部材を形成し、この出入り用柵部材の左右縦杆の内側面と前記出入り用柵部材に連結されるメイン柵部材の縦杆の内側面とに跨って連結体を固定すると共に、前記扉の揺動側に位置する連結体の長さ方向一端部を前記出入口に突出させて、この突出部位により扉を閉鎖位置で受け止めるように成し、前記出入り用柵部材における前記扉の揺動側に位置する縦杆の外側面には、前記扉を前記連結体の突出部位とで挟持するためのロック部材が、前記出入口に突出する位置と前記出入口から退く位置とに位置変更可能に設けられていることを特徴とする。

10

【0007】

請求項2に係る本発明は、請求項1に記載の仕切り部材において、出入口用柵部材の枠体を構成する縦杆及び下部横杆の幅をメイン柵部材の枠体を構成する縦杆及び下部横杆の幅の約2倍としていることを特徴とする。

20

【0008】

請求項3に記載の発明は、請求項1または2に記載の仕切り部材において、前記連結体が、前記出入り用柵部材及び前記メイン柵部材の上部と下部の2ヵ所に設けられていることを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

請求項1に記載の発明によれば、扉の開放により、U字状の枠体の下部横杆と左右縦杆とで画成される出入口からスムーズに出入りすることができ、それでいながら、扉の閉鎖に伴い、扉の遊端部が、出入り用柵部材の左右縦杆の内側面と前記出入り用柵部材に連結されるメイン柵部材の縦杆の内側面とに跨って固定された連結体と出入り用柵部材における前記扉の揺動側に位置する縦杆の外側面に取り付けられたロック部材とで挟持されて、メイン柵部材と出入り用柵部材のみならず出入り用柵部材を構成する枠体と扉の遊端側が一体的に結合されるので、出入り用柵部材のみならず仕切り部材全体の剛性が高まり、支障なく扉の開閉も行なうことができる。

30

【0010】

請求項2に記載の発明によれば、請求項1に記載の発明の効果に加え、前記出入り用柵部材を構成する枠体の強度が充分確保されて、出入り用柵部材のみならず仕切り部材全体の剛性がより一層高まる。

【0011】

40

請求項3に記載の発明によれば、請求項1または2に記載の発明の効果に加え、扉の閉鎖に伴い、扉の遊端部の上下が、出入り用柵部材の左右縦杆の内側面と前記出入り用柵部材に連結されるメイン柵部材の縦杆の内側面とに跨って固定された連結体と出入り用柵部材における前記扉の揺動側に位置する縦杆の外側面に取り付けられたロック部材とで挟持されて、メイン柵部材と出入り用柵部材のみならず出入り用柵部材を構成する枠体と扉の遊端側がより一層一体的に結合されるので、出入り用柵部材のみならず仕切り部材全体の剛性がさらに高まる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、本発明の実施の形態を添付した図面により詳細に説明する。

50

【 0 0 1 3 】

先ず、図 1 は、本発明に係る仕切り部材の一実施形態を示す斜視図、

図 2 は、扉を開いた状態の仕切り部材の斜視図、図 3 は、要部を分解して示す正面図、図 4 は、出入り用柵部材を構成する枠体の正面図、図 5 は、出入り用柵部材を構成する扉の正面図、図 6 は、要部の背面図、図 7 は、要部の拡大平面図、図 8 は、要部の拡大断面図である。

【 0 0 1 4 】

そして、図 1 ~ 図 8 において符号 1 で示す本発明の仕切り部材は、主として建屋内の部屋の出入口に設置して用いるペット用のゲートに適用したものであって、この仕切り部材 1 は、直列状に連結される 3 枚の柵部材、具体的には、仕切り専用の 2 枚のメイン柵部材 2 a ・ 2 b 及び扉 6 により開閉される出入口 3 0 が備えられた 1 枚の出入り用柵部材 3 と、直列状に連結された柵部材群の長さ方向両端に組みつけられて、この柵部材群を立設させるための一対の脚部材 4 とから構成されている。

10

【 0 0 1 5 】

仕切り専用の 2 枚のメイン柵部材 2 a ・ 2 b は、上下の横杆 2 1 ・ 2 2 及びこれら上下の横杆 2 1 ・ 2 2 の長さ方向両端に架設される左右の縦杆 2 3 ・ 2 4 から矩形状に枠組みされた枠体 2 0 を備え、この枠体 2 0 における上下の横杆 2 1 ・ 2 2 間には複数本の仕切り杆 2 5 を架設している。

【 0 0 1 6 】

出入口 3 0 が設けられる出入り用柵部材 3 は、下部横杆 5 1 及びこの下部横杆 5 1 の長さ方向両端部から立設する左右縦杆 5 2 ・ 5 3 から正面視略 U 字状に枠組みされた枠体 5 と、この枠体 5 を構成する右側の縦杆 5 3 にヒンジ金具 5 4 を介して揺動自由に支持されて、枠体 5 の下部横杆 5 1 及び左右縦杆 5 2 ・ 5 3 で画成される出入口 3 0 を開閉する扉 6 とから構成されている。

20

【 0 0 1 7 】

枠体 5 を構成する下部横杆 5 1 は、その幅 L 1 をメイン柵部材 2 a ・ 2 b における下部横杆 2 2 の幅 L 2 の約 2 倍とし、また左右縦杆 5 2 ・ 5 3 の幅 L 3 もメイン柵部材 2 a ・ 2 b における縦杆 2 3 ・ 2 4 の幅 L 4 の約 2 倍としている。

【 0 0 1 8 】

扉 6 は、上下の横杆 6 1 ・ 6 2 と、これら上下の横杆 6 1 ・ 6 2 の長さ方向両端に架設される左右の縦杆 6 3 ・ 6 4 と、上下の横杆 6 1 ・ 6 2 間に架設された複数本の仕切り杆 6 5 とから枠組み形成されている。

30

【 0 0 1 9 】

脚部材 4 は、上下の横杆 4 1 ・ 4 2 と、これら上下の横杆 4 1 ・ 4 2 の長さ方向両端に架設される左右の縦杆 4 3 ・ 4 4 と、上下の横杆 4 1 ・ 4 2 間に架設された複数本の仕切り杆 4 5 とから枠組み形成され、下部横杆 4 2 は上部横杆 4 1 よりも長く形成している。

【 0 0 2 0 】

出入り用柵部材 3 は、図 1 にも示すように、2 枚のメイン柵部材 2 a ・ 2 b 間に組み付けられるのであって、出入り用柵部材 3 とメイン柵部材 2 a ・ 2 b を連結するために、正面視短冊状に形成した木製の連結体 7 と、この連結体 7 を前述の柵部材 2 a ・ 2 b ・ 2 c に固定するための固定金具 8 及び既存の木製のダボ部材 7 0 とを用いている。

40

【 0 0 2 1 】

固定金具 8 は、長さ方向一端に回転操作用フランジ 8 1 を備えた螺子軸 8 2 と、長さ方向一端に回転操作用フランジ 8 3 を備え、前記螺子軸 8 2 が螺合可能な螺子筒 8 4 とから構成されている。

【 0 0 2 2 】

そして、出入り用柵部材 3 とメイン柵部材 2 a ・ 2 b を前記したダボ部材 7 0 により連結するために、メイン柵部材 2 a ・ 2 b における出入り用柵部材 3 との連結側に位置する縦杆 2 3 ・ 2 4 並びに出入り用柵部材 3 の左右縦杆 5 2 ・ 5 3 には、ダボ部材 7 0 の嵌合穴 7 0 a がそれぞれ設けられて、これら嵌合穴 7 0 a にダボ部材 7 0 を密嵌することで、ダ

50

ボ部材 7 0 を介して出入り用柵部材 3 とメイン柵部材 2 a ・ 2 b を連結するようにしている。

【 0 0 2 3 】

また更に出入り用柵部材 3 とメイン柵部材 2 a ・ 2 b を前記した連結体 7 と固定金具 8 により連結するために、連結体 7 の長さ方向両端部と、メイン柵部材 2 a ・ 2 b の上下横杆 2 1 ・ 2 2 及び出入り用柵部材 3 の左右縦杆 5 2 ・ 5 3 の長さ方向両端部には、固定金具 8 の螺子軸 8 2、螺子筒 8 4 を挿通するための貫通孔 8 0 が設けられて、メイン柵部材 2 a ・ 2 b の上下横杆 2 1 ・ 2 2 及び出入り用柵部材 3 の左右縦杆 5 2 ・ 5 3 の両端部に連結体 7 を貫通孔 8 0 を介してそれぞれ固定金具 8 により固定することで、この連結体 7 を介して柵部材 2 a ・ 2 b ・ 3 同士を連結するようにしている。

10

【 0 0 2 4 】

そして連結体 7 による柵部材 2 a ・ 2 b ・ 3 の連結に際して、図 6、図 7 にも示すように、扉 6 の揺動側に位置する連結体 7 の長さ方向一端部を前記出入口 3 0 に突出させて、この突出部位 7 a により扉 6 を閉鎖位置で受け止めるように成している。

【 0 0 2 5 】

また出入り用柵部材 3 の枠体 5 における扉 6 の揺動側に位置する縦杆 5 2 の外側面上部には、ホルダー 9 1 に移動可能に取り付けられたロック部材 9 が設けられている。

【 0 0 2 6 】

このロック部材 9 は、出入口 3 0 に突出する位置と出入口から退く位置とに位置変更可能であって、出入口 3 0 に突出することで、扉 6 を前記した連結体 7 の突出部位 7 a とで挟持するようにしている。

20

【 0 0 2 7 】

また脚部材 4 をメイン柵部材 2 a ・ 2 b に固定するのに、脚部材 4 の縦杆 4 3 にも貫通孔（図示せず）を設けて、この貫通孔及びメイン柵部材 2 a ・ 2 b の左右縦杆 2 3 ・ 2 4 に設けた貫通孔 8 0 を介して前記した固定金具 8 により、脚部材 4 をメイン柵部材 2 a ・ 2 b に固定するようにしている。

【 0 0 2 8 】

尚、図中 1 0 は、扉 6 の閉鎖時、扉 6 を枠体 5 に係止するための係止ピンであって、その遊端部を枠体 5 の縦杆 5 2 に設けた係合穴 1 1 に嵌合させるようにしている。

【 0 0 2 9 】

30

以上の仕切り部材 1 によれば、出入り用柵部材 3 の扉 6 の開放により、U 字状の枠体 5 の下部横杆 5 1 と左右縦杆 5 2 ・ 5 3 とで画成される出入口 3 0 からスムーズに出入りすることができる。

【 0 0 3 0 】

また扉 6 の閉鎖に伴い、扉 6 の遊端部が、出入り用柵部材 3 の左右縦杆 5 2 ・ 5 3 の内側面とこの出入り用柵部材 3 に連結されるメイン柵部材 2 a の縦杆 5 2 の内側面とに跨って固定された連結体 7 と出入り用柵部材 3 における扉 6 の揺動側に位置する縦杆 6 3 の外側面に取り付けられたロック部材 9 とで挟持され、これにより、メイン柵部材 2 a ・ 2 b と出入り用柵部材 3 のみならず出入り用柵部材 3 を構成する枠体 5 と扉 6 の遊端側が一体的に結合される。

40

【 0 0 3 1 】

従って、出入り用柵部材 3 のみならず仕切り部材 1 全体の剛性が高まる。

【 0 0 3 2 】

以上の実施形態では、出入り用柵部材 3 とメイン柵部材 2 a ・ 2 b を連結するために、正面視短冊状に形成した木製の連結体 7 と、この連結体 7 を前述の柵部材 2 a ・ 2 b ・ 2 c に固定するための固定金具 8 及び既存の木製のダボ部材 7 0 とを用いたが、ダボ部材 7 0 を用いずに、連結体 7 と、この連結体 7 を前述の柵部材 2 a ・ 2 b ・ 2 c に固定するための固定金具 8 だけで連結してもよい。

【 0 0 3 3 】

また以上の実施形態では、図 7 にも示すように、枠体 5 を構成する幅広の左右縦杆 5 2

50

・ 5 3 の幅広面を仕切り部材 1 の外面に沿うように配置したが、図 9 に示すように、縦杆 5 2 の幅広面をメイン柵部材 2 a ・ 2 b の縦杆 2 3 ・ 2 4 と対向させるように配置してもよい。

【 0 0 3 4 】

この場合、出入り用柵部材 3 の枠体 5 における扉 6 の揺動側に位置する縦杆 5 2 の外側面に凹溝 5 2 a を形成して、この凹溝 5 2 a 内に、ロック部材 9 のホルダー 9 1 を固定するのが望ましい。

【 0 0 3 5 】

また以上の実施形態では、本発明の仕切り部材 1 を、主として建屋内の部屋の出入口に設置して用いるゲートに適用したが、これに限定されるものではなく、例えば図 1 0 に示すように、子犬等を一定の場所に入れておくためのサークル（囲い）に適用してもよい。

【 0 0 3 6 】

尚、図 1 0 に示すサークルとして用いられる仕切り部材 1 は、前記実施形態で用いた 2 枚のメイン柵部材 2 a ・ 2 b 及び扉 6 により開閉される出入口 3 0 が備えられた 1 枚の出入り用柵部材 3 に加えて、サークルの背面を画成する 3 枚のメイン柵部材 2 c ・ 2 d ・ 2 e と、サークルの両側面を画成する 2 枚の幅広のメイン柵部材 2 f ・ 2 g が備えられ、これらメイン柵部材 2 a ~ 2 g 及び出入り用柵部材 3 を平面視矩形状に連結したものであって、その連結構造は、前記した実施形態のものと変わらない。

【 0 0 3 7 】

以上のサークルタイプの仕切り部材にあっても、出入口 3 0 からの出入りが支障なく行なえ、それでいながら、扉 6 の閉鎖に伴い、扉 6 の遊端部が、出入り用柵部材 3 の左右縦杆 5 2 ・ 5 3 の内側面とこの出入り用柵部材 3 に連結されるメイン柵部材 2 a の縦杆 5 2 の内側面とに跨って固定された連結体 7 と出入り用柵部材 3 における扉 6 の揺動側に位置する縦杆 6 3 の外側面に取り付けられたロック部材 9 とで挟持され、これにより、メイン柵部材 2 a ・ 2 b と出入り用柵部材 3 のみならず出入り用柵部材 3 を構成する枠体 5 と扉 6 の遊端側が一体的に結合され、出入り用柵部材 3 のみならず仕切り部材 1 全体の剛性を高めることができる。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 3 8 】

本発明は、ペット用のゲートやサークルに限らず、例えば乳幼児用のゲートやサークルにも適用できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 9 】

【図 1】本発明に係る仕切り部材の一実施形態を示す斜視図。

【図 2】扉を開いた状態の仕切り部材の斜視図。

【図 3】要部を分解して示す正面図。

【図 4】出入り用柵部材を構成する枠体の正面図。

【図 5】出入り用柵部材を構成する扉の正面図。

【図 6】要部の背面図。

【図 7】要部の拡大平面図。

【図 8】要部の拡大断面図。

【図 9】出入り用柵部材を構成する枠体の縦杆の配置方向の変更例を示す要部の拡大平面図。

【図 1 0】本発明に係る仕切り部材の別の実施形態を示す斜視図。

【符号の説明】

【 0 0 4 0 】

- 1 仕切り部材
- 2 a ・ 2 b メイン柵部材
- 2 0 枠体
- 2 1 ・ 2 2 横杆

10

20

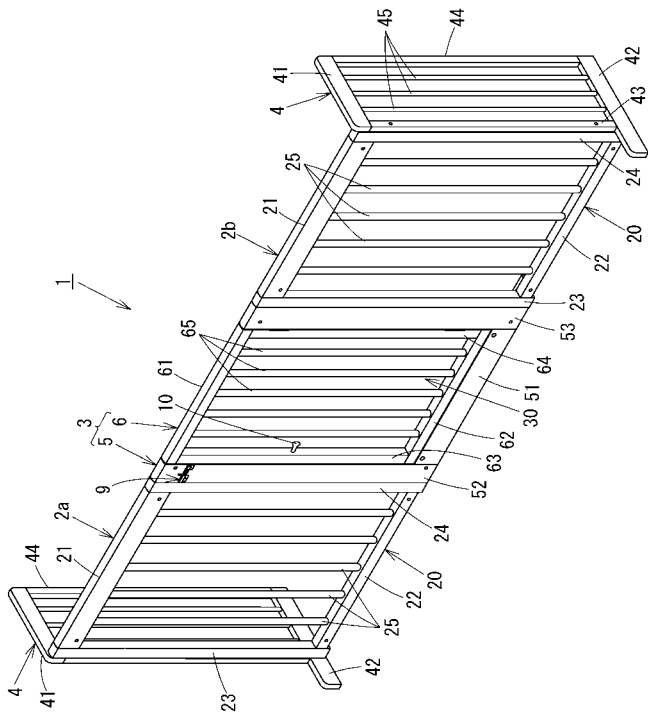
30

40

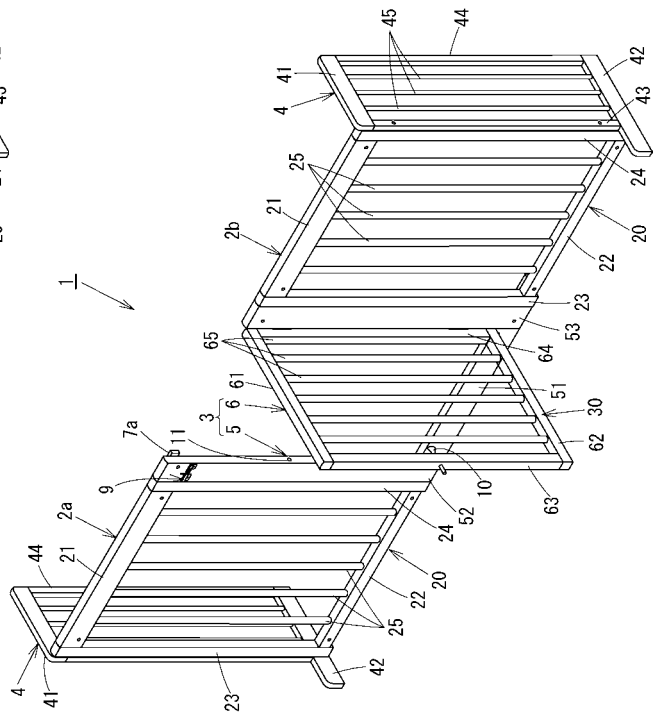
50

- 2 3 ・ 2 4 縦杆
- 3 出入り用柵部材
- 3 0 出入口
- 5 枠体
- 5 1 下部横杆
- 5 2 縦杆
- 5 3 横杆
- 6 扉
- 6 1 ・ 6 2 横枠
- 6 3 ・ 5 4 横杆
- 7 連結体
- 7 a 突出部位
- 8 固定金具
- 9 ロック部材

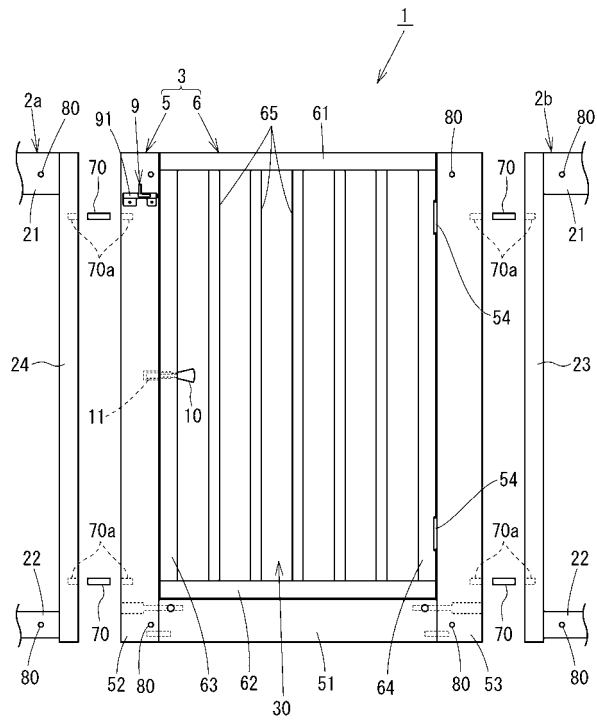
【 図 1 】



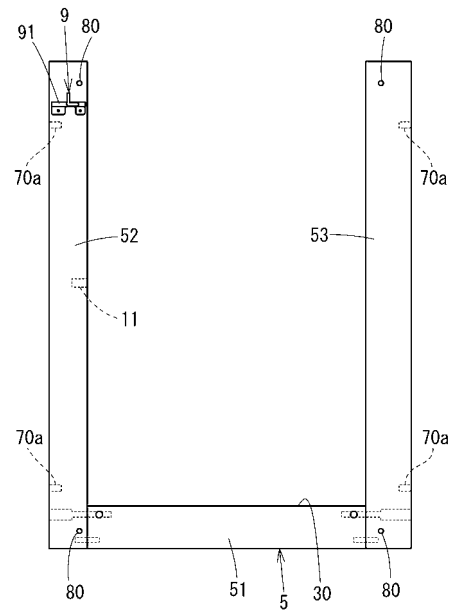
【 図 2 】



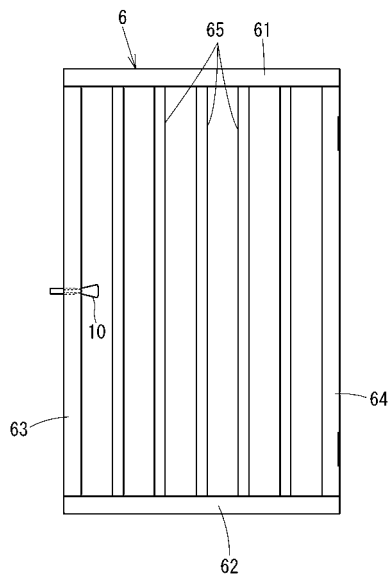
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

